

令和5年度 飼料用米多収日本一表彰式

開催日 2024年3月21日

会場 農林水産省・7階講堂

共同開催
農林水産省
一般社団法人日本飼料用米振興協会

「飼料用米多収日本一」表彰事業とは

一般社団法人日本飼料用米振興協会（j-fra）と農林水産省が共同開催しています。全国の農業生産者を対象とした、多収性飼料用米の【単位収量の部】、【地域の平均単収からの増収の部】の2部門での生産収量の日本一を表彰する事業を実施しております。

JA全国農業協同組合中央会、JA全国農業協同組合連合会、協同組合日本飼料工業会、日本農業新聞の協賛協力支援で運営をしています。

事業名称

「飼料用米多収日本一」表彰事業

目的

飼料用米生産農家の生産技術の向上を目指し、多収を実現している先進的で他の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介する「飼料用米多収日本一表彰事業」を実施。

内容

1. 飼料用米生産農家の生産にかかる技術水準の向上を推進するために、多収を実現している先進的で他の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介する「飼料用米多収日本一」の表彰を行います。
2. 対象は、全国の飼料用米に取り組む経営体とし、応募を受けて、審査を行い、その年度の飼料用米の10a当たりの収量が優れる経営体を表彰します。

3. 日程、応募方法については以下により持しています。

（下記日程は、今後の準備段階で変更がありますのでご注意ください）

- ・ 4月上旬 実施要領の公表**
 - ・ 5月上旬 応募開始**
 - ・ 6月末 応募締切（状況に応じ、期間を決めています）**
- 応募先については、農林水産省地方農政局で行っています。**

PRESS RELEASE 掲載ページにGO

応募先・お問い合わせ窓口など

応募、お問い合わせは、以下へお願いします。

飼料用米多収日本一ブロック事務局（添付資料参照）

応募は、お手持ちのパソコン、スマートフォンから、オンライン申請も受付しております。

オンライン申請はこちらから、応募の詳細につきましては、以下のURLをご確認ください。

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/siryouqa.html>

日本飼料用米振興協会（外部リンク）<http://www.j-fra.or.jp/>

4. 詳細については、今後、関係各位と調整し公表いたします。

この項は、農林水産省 農政クラブ・農林記者会でニュースリリースを配布させていただきました。

令和5年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

○単位収量の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	単収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	やまぐち かつとし 山 口 勝利	北海道 美唄市	きたげんき	206	974	多収性や耐倒伏性、耐冷性に優れた品種の選定、早期移植による登熟期間の確保、初期生育の確保、ケイカルによる倒伏防止対策等、収量の向上とコスト低減に取り組み、その結果、単収がこれまでの本コンテストの参加者の中で過去最高の974kgと、他の生産者と比べて特に優秀な成績となっている。
農産局長賞	かいち ひろし 海地 博志	山口県 山口市	北陸193号 夢あおば オオナリ みなちから	332	812	耕畜連携による鶏ふん堆肥の活用、疎植による軽労化の取組など、耕畜連携に積極的に取り組む中で高単収を実現している。また、現地ほ場視察会等の実需者との連携の取組や、飼料用米向け種子生産を2ha規模で実施するなどの飼料用米の定着に向けた取組が行われている。
全国農業協同組合 中央会会長賞	ふるかわ ひさお 古川 久夫	岩手県 盛岡市	たわわっこ	290	788	高い収量もさることながら、育苗ハウス内にビニールを敷いてスプリンクラー散水を行うことで省力化を図るなど、保有する施設を最大限工夫しながら生産を行っている。さらに、地域内でもみ穀とたい肥を循環させる等、耕畜連携を積極的に行っている。
全国農業協同組合 連合会会長賞	こばり のぶよし 小針 暢芳	福島県 須賀川市	ふくひびき	203	760	多収性のふくひびきによる栽培方法を確立し、年々収量を増加させ、高単収を実現している。また、流通の円滑化・経営の合理化につながる全農買取スキームを活用しながら飼料用米生産に取り組んでいる。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	ひぐま まなぶ 樋熊 学	秋田県 大潟村	ふくひびき	475	837	大潟村において経営面積14haのうち3分の1を飼料用米生産に充てる中で、各般のきめ細かな作業の積み重ねとスマート農機の導入等により省力化・低コスト化を図りつつ高水準の単収を実現し、地域の販売業者を介して実需者との間で安定した飼料用米の利活用システムを構築している。
日本農業新聞 会長賞	たかすぎ しんえつ 高杉 伸悦	青森県 五所川原市	ゆたかまる	370	780	多収性や耐倒伏性に優れ、地元の青森県に適した品種を用いるとともに、毎年、ほ場ごとに異なる施肥方法を試すなど収量の増加に取り組んでいる。また、折衷苗代での育苗や疎植による省力化に取り組む中で高単収を実現している。

令和5年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

○地域の平均単収からの増収の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	地域平均単収 からの増収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	くまがい さとし 熊谷 聡	福島県 須賀川市	ふくひびき	371	311	ブール育苗や密播による育苗の低コスト・軽労化や、立毛乾燥やフレコンの導入による生産・流通コストの低減等の取組を行う中で、年々単収を増加させ、地域の平均単収からの増収が311kgという高単収を実現し、特に優秀な成績となっている。
農産局長賞	農事組合法人ふながわ よしい ひさなり 代表者 由井 久也	富山県 朝日町	やまだわら	608	305	53haという大規模な経営の中で、水稻と大豆でブロックローテーションを行いながら、丁寧な土づくり・施肥管理、効率的な作業・軽労化の工夫を行い、スマート農業にも積極的に取り組む中で、6haの飼料用米で高単収を実現している。
全国農業協同組合 中央会会長賞	たかの ひろふみ 高野 博文 たかの もりお 高野 森夫	福島県 飯舘村	ふくひびき	1,609	240	福島県の被災地において、避難先との往復をしながら、省力化栽培である水稻湛水直播栽培に取り組み、地域の平均単収を大きく上回る単収を達成している。また、引き受ける農地を平成30年から約15倍の16haまで増加させており、地域の農地の貴重な担い手になっている。
全国農業協同組合 連合会会長賞	さくらい ひろし 櫻井 博	茨城県 つくば市	夢あおば	1,847	203	多収性の夢あおばによる栽培方法を確立し、19haの大規模な作付面積において高い単収を実現している。 栽培管理支援システム「ザルビオ」を活用して農機とデータ連動し可変施肥を実施するなど、スマート農業を導入して効率的な農業経営を実践している。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	むた もとはる 牟田 基治	佐賀県 みやき町	ミズホチカラ	127	215	同じ県内の実需者との協力による堆肥の活用を通じて地域循環を基本とした耕畜連携を推進しつつ、高水準の単収を実現し、当該実需者との間で有利販売に基づく安定した飼料用米の利活用システムを構築している。
日本農業新聞 会長賞	うめむら こうじ 梅村 貢司	愛知県 豊田市	もみゆたか	781	214	経営面積11haのうち8haで飼料用米の生産に取り組む中で、高単収を実現している。また、育苗における密播など、省力化やコスト低減に取り組んでいる。

令和5年度「飼料用米多収日本一」

審査委員名簿

(敬称略)

東京大学 名誉教授

谷口 信和

国立研究開発法人農業・食品産業技術研究機構中日本農業研究センター
転換畑研究領域畑輪作システムグループ 主席研究員

中野 洋

株式会社トマル 常務執行役員

櫻井 康生

生活クラブ生活協同組合・神奈川 副理事長

萩原つなよ

全国農業協同組合中央会農政部 部長

生部 誠治

全国農業協同組合連合会米穀部 部長

金森 正幸

協同組合日本飼料工業会 専務理事

高橋 洋

日本農業新聞編集局 主幹

堀越 智子

農林水産省農産局穀物課 課長補佐（総括及び総務班）

小口 悠

令和5年度（2023年度）飼料用米多収日本一表彰式 次第

令和5年度「飼料用米多収日本一」表彰式

日時：令和6年（2024年）3月21日（木）13時30分～14時30分終了

場所：農林水産省本館7階講堂

式次第

1 開 会

2 挨 拶

農林水産省：農産部農政部長 松本 平
一般社団法人日本飼料用米振興協会 理事長 海老澤恵子

3 賞状授与

農林水産大臣賞
農産局長賞
全国農業協同組合中央会会長賞
全国農業協同組合連合会会長賞
協同組合日本飼料工業会会長賞
日本農業新聞会長賞

4 農林水産大臣賞・受賞者 御挨拶

山口 勝利（北海道・美唄市） 単収量の部
熊谷 聡 （福島県須賀川市） 地域の平均単収からの増収の部

5 閉 会

（閉会後、集合写真撮影）



松本 平 農政政策部長



海老澤 恵子 協会・理事長





司会進行 太田 義孝（農林水産省農産部穀物課）





農林水産大臣賞 受賞者のご挨拶

【単位収量の部】山口 勝利

【地域の平均単収からの増収の部】樋口 聡

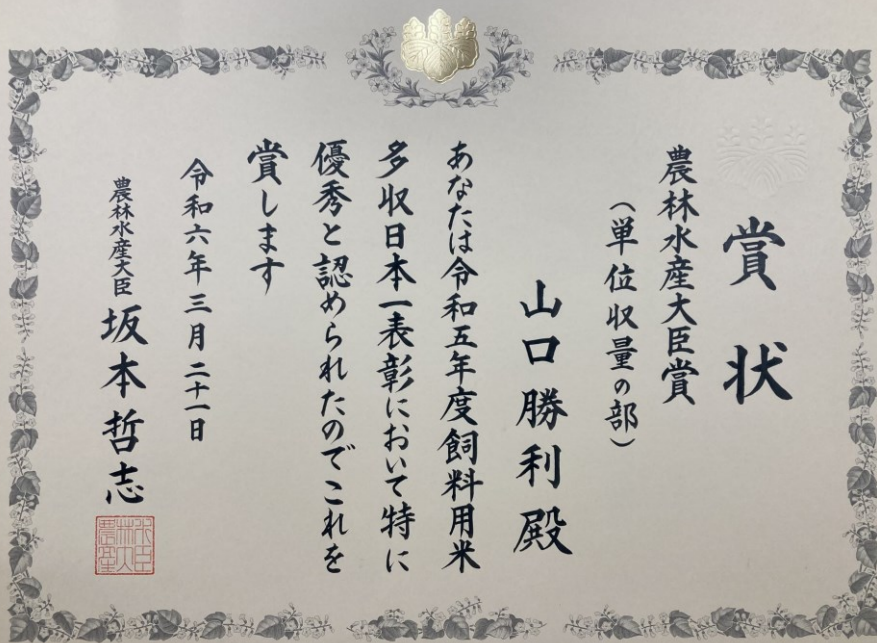
令和5年度 飼料用米多収日本一表彰式

共催 農林水産省・一般社団法人日本飼料用米振興協会



高杉・高杉、高野秀子・高野・高野・高野由紀、桜井勝・桜井・桜井たか子・大里（JAつくば）・海老澤（協会）
堀越（農業新聞）、梅村、須藤・古川、鈴木・小針、樋熊・樋熊敬子、牟田・牟田幸子、金森（JA全農）
杉山（JA全中）、村田・海地、山口・山口、松本（農水省）、熊谷・塩田、澤田・澤田照子、林（飼料工業会）

赤文字：受賞者本人



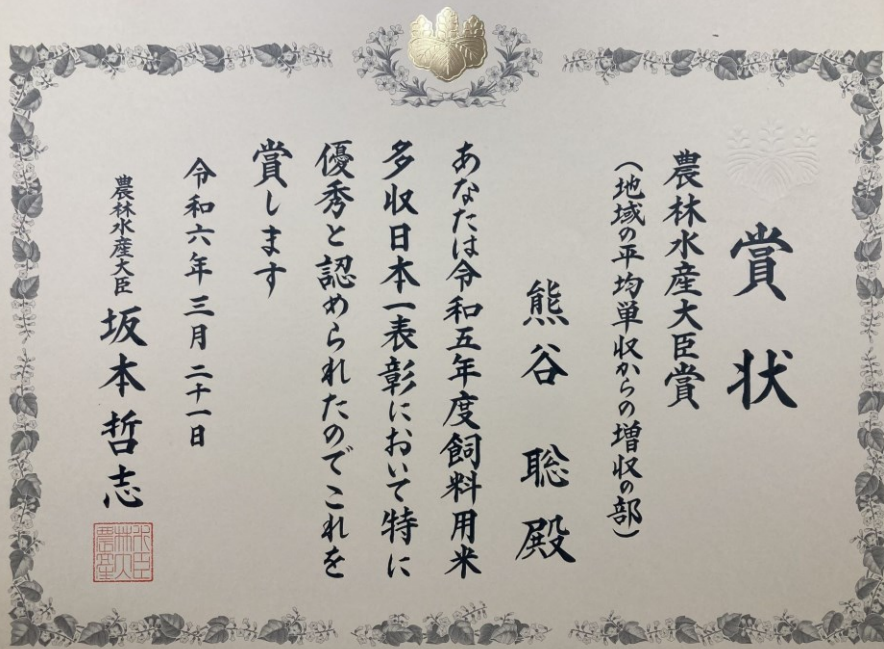
山口 勝利

松本 平



農政政策部長

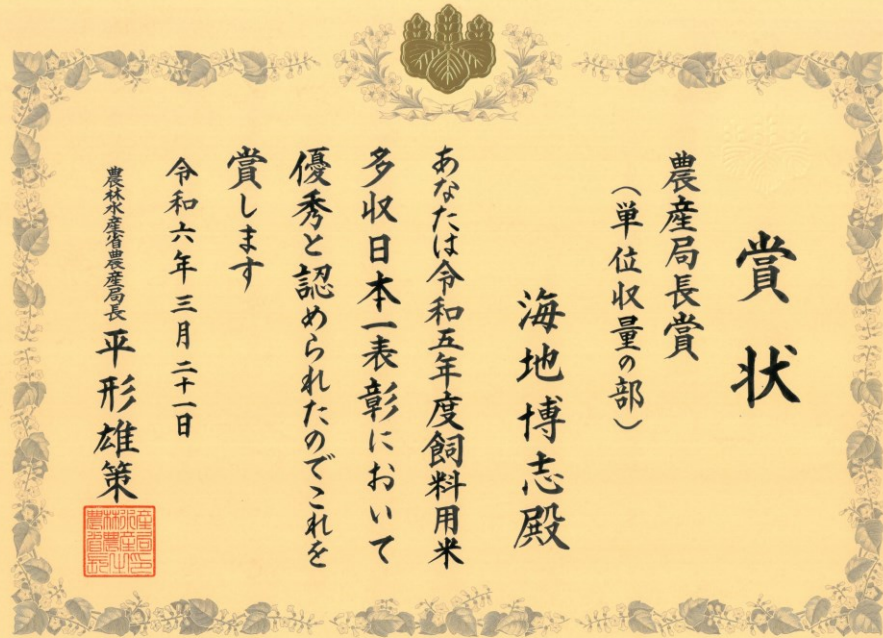
山口 康子



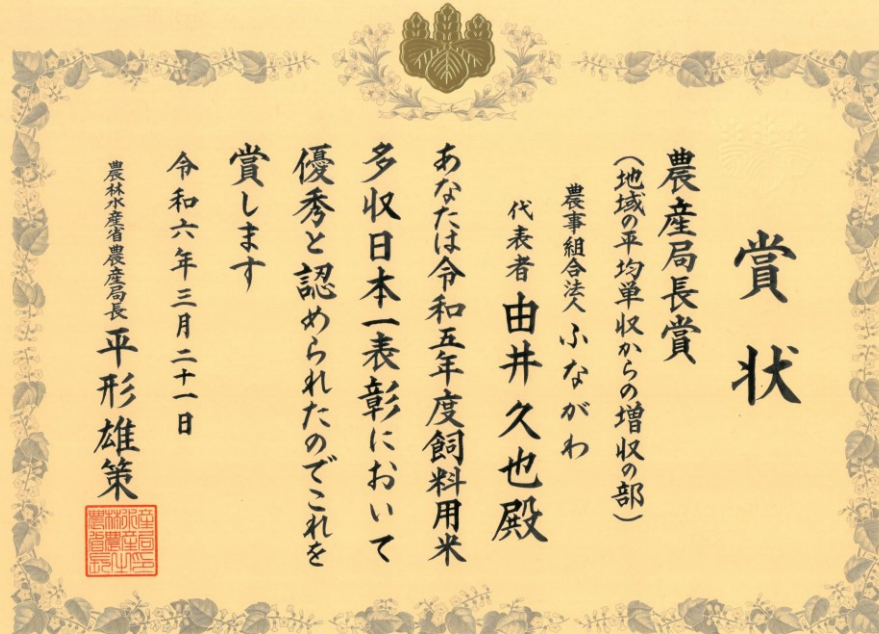
塩田 正彦 (JA夢みなみ)

松本 平/農政政策部長

熊谷 聡

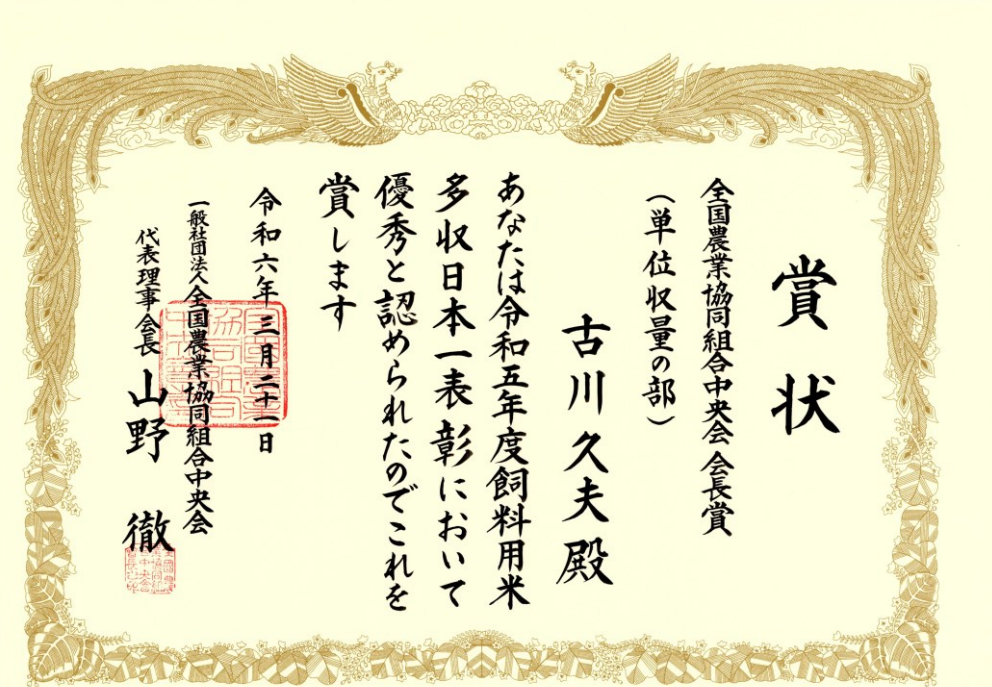


村田 洋（秋川牧園取締役ゆめファーム農場長） 松本 平/農政政策部長 海地 博志



澤田 康子 松本 平/農政政策部長

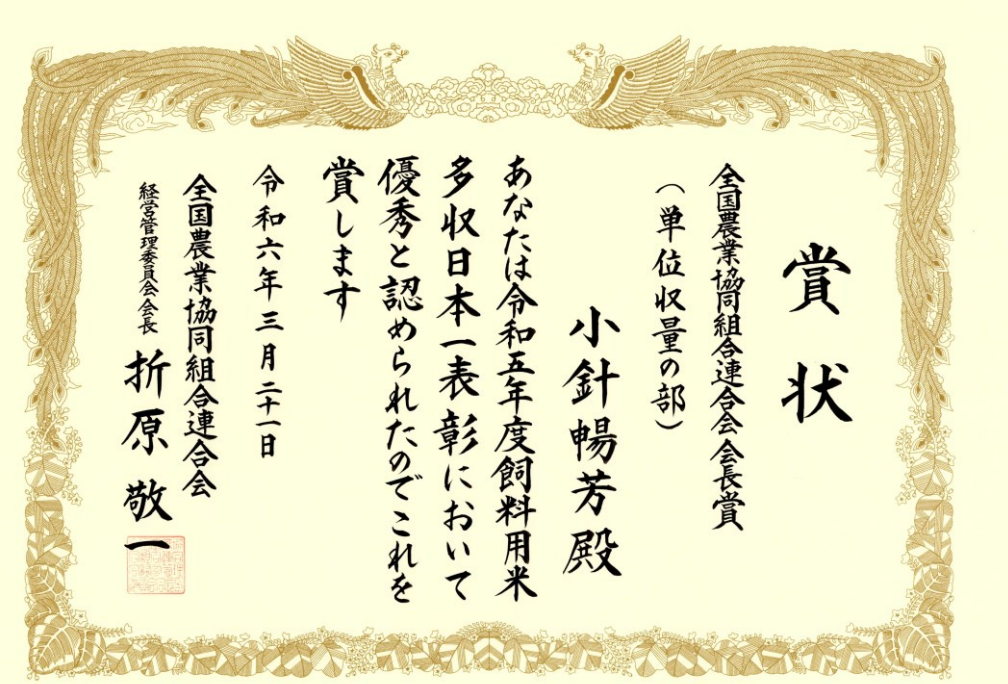
澤田 行康 (ふながわ副代表)



古川 久夫 杉山 隆之/JA全中農政部次長

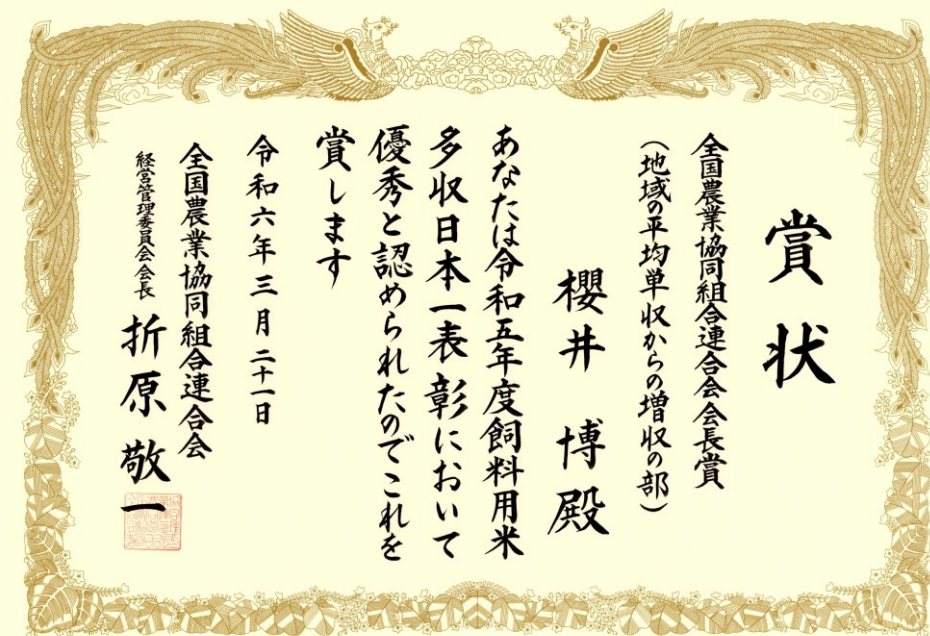


高野 森夫 杉山 隆之/JA全中農政部次長 高野 博文



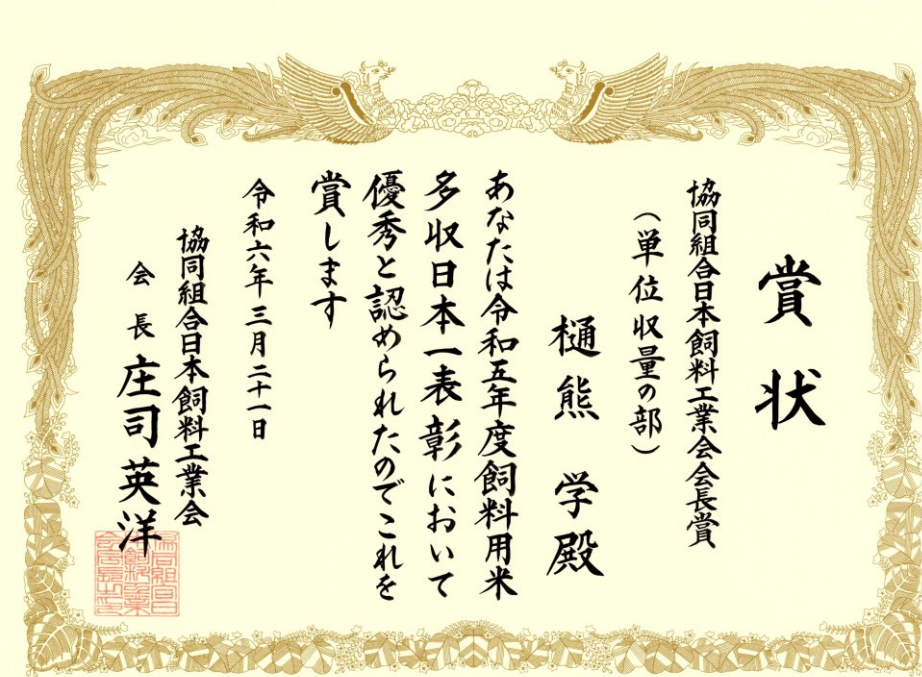
須藤 聖人 (JA新いわて) 金森 正幸 (JA全農/米穀部長)

小針暢芳



桜井 聖人 金森 正幸 (JA全農/米穀部長)

桜井 博



樋熊 学 林 義隆（日本飼料工業会/参事）

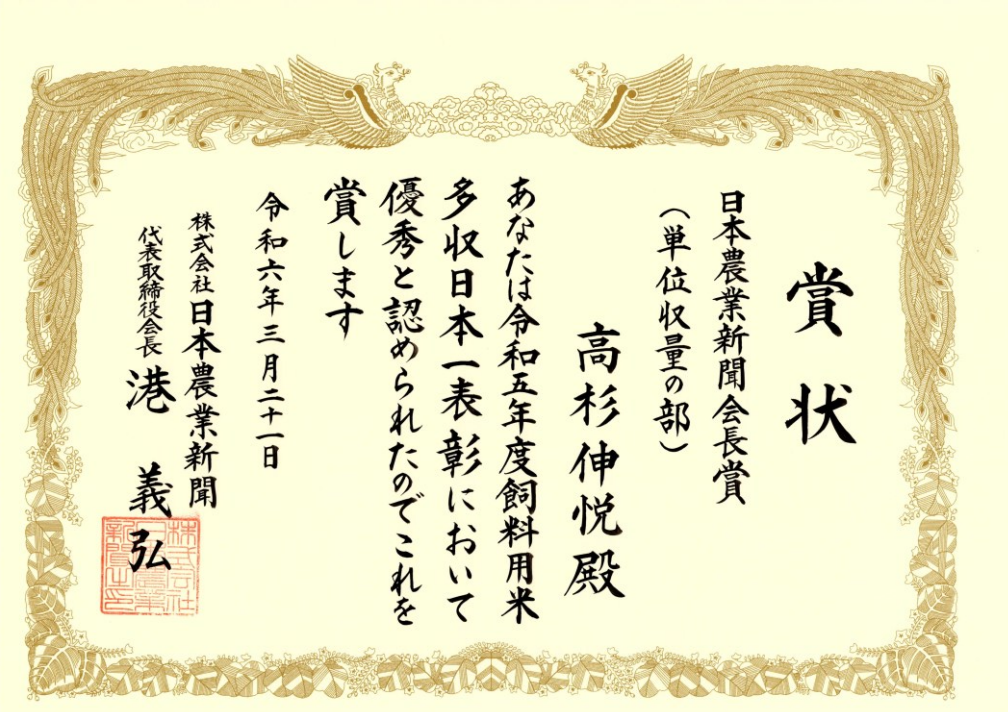
樋熊 敬子



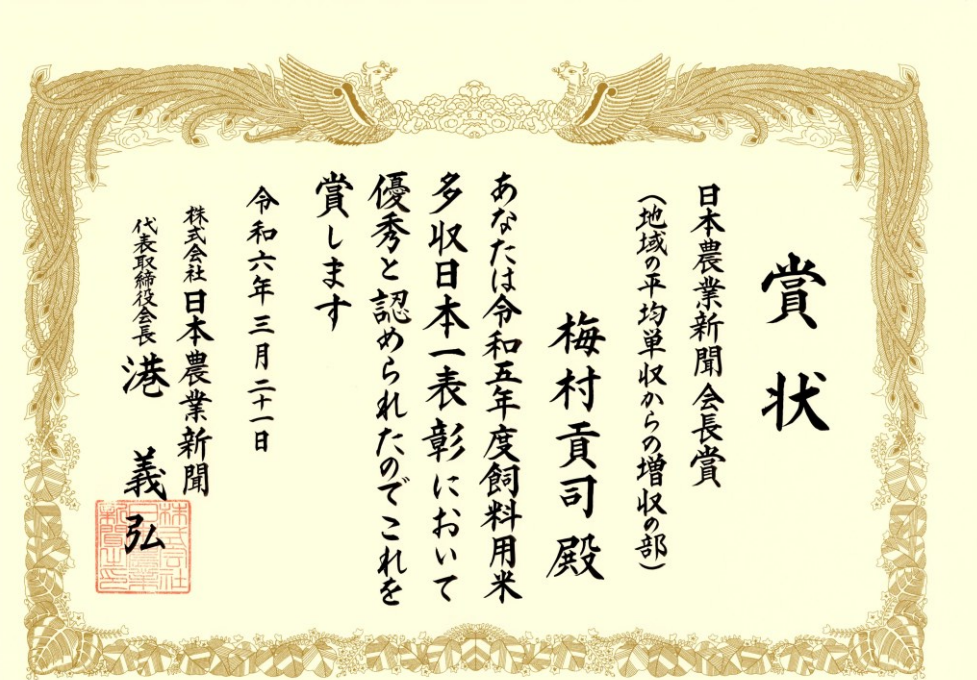
牟田 基治 林 義隆（日本飼料工業会/参事）



牟田 幸子



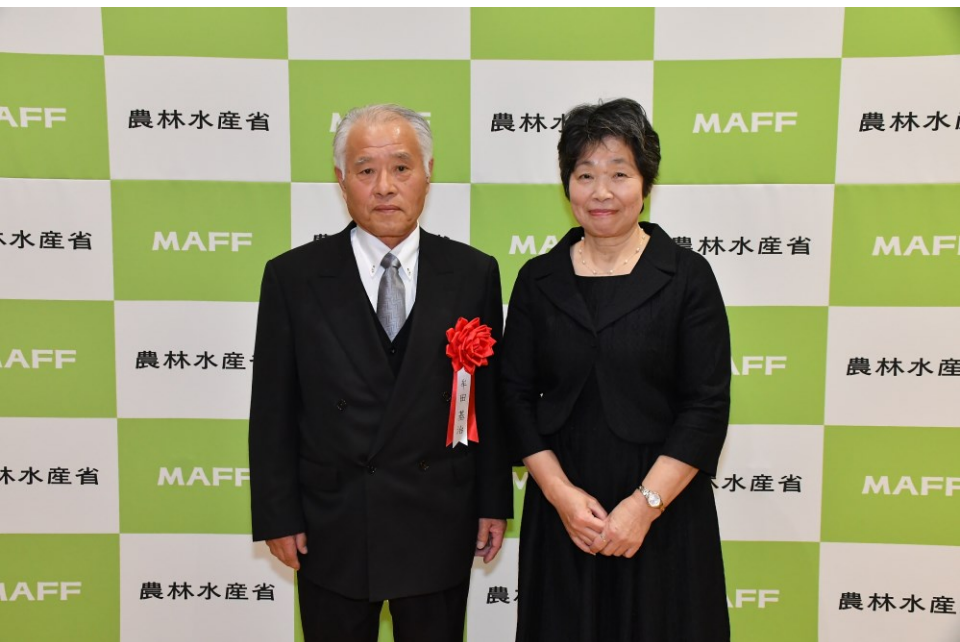
高杉 榮子 堀越 智子（日本農業新聞/編集局・論説委員） 高杉 伸悦



梅村 貢司 堀越 智子（日本農業新聞/編集局主幹・論説委員）



表彰式終了後、受賞者の皆さんは、金屏風や農林水産省ロゴマークをバックに記念撮影



表彰式終了後、受賞者の皆さんは、金屏風や農林水産省ロゴマークをバックに記念撮影



表彰式終了後、お互いにご挨拶などの交流をされました。



